

浦嶋伝説



時代は雄略天皇22年(神代478年)の時、浦嶋子が一人舟で釣りに出て五色の亀を釣りあげました。亀は亀姫という絶世の美女に変身し、嶋子は誘われるままに常世へと連れられます。嶋子は常世で姫と結婚し夢のような3年間を過ごし、やがて望郷の念にかられて一人帰郷します。亀姫はその別れ際に、決して開けてはならないと注意して玉櫛笥を渡し、嶋子が戻ったのはなんと300年後。すでに知る人もなく呆然としてつい玉手箱を開けると、若々しい肉体は瞬間に天空に飛び散った…。この話を耳にした淳和天皇(在位823～833年)が勅使に命じて嶋子を祀ったのが浦嶋神社と伝わっています。

伊根の伝説



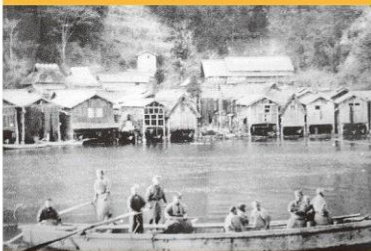
徐福伝説

紀元前219年、中国が秦の時代、徐福は始皇帝の命により不老長寿の薬を求めて童男童女三千人、五穀の種子、百工を伴い、不老長寿を体得した神仙が住む遙か東方海上にあるという三神山をめざし船出をし、伊根町の新井崎にたどり着きました。新井崎には、この徐福を祀った新井崎神社があります。



鬼伝説

むかし、むかし、薦池村の庄屋さんが大江山の元伊勢に参拝に行った帰りに雪で遭難してしまいました。その時、夢か現か、鬼が現れこういいました。「節分に豆をまかないでくれたら助けてやろう。」庄屋さんが約束すると、「約束を守るなら、村を火から守ろう。」鬼はそう言い残して去りました。「庄屋さんの言うことなら間違いあるめえ。」以来、薦池では鬼は神様。村人たちは鬼を信じ、節分がありません。



明治後期の舟屋



1階が船のガレージで2階が居室になっている「伊根の舟屋」は、伊根湾沿いに水際ぎりぎり約230軒が群として建ち並んでいます。

その独特の景観とそこに息づく人々の暮らしから、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、「日本で最も美しい村連合」にも加盟しています。

舟屋は江戸時代の中期(1800年代)前後から存在しているとされ、当時は茅葺の屋根で、網を干す必要性から床板はありませんでした。

ほとんどが明治から昭和初期にかけて現在のように木造2階建てになりました。

生活の基盤は道を隔てて山側にある母屋にあり(海側に母屋がある場合もあります)、漁業中心の生活は現在まで引き継がれています。

伊根の舟屋

京都 伊根なび 海の京都



やさしい、うれしい、魅力いっぱいの伊根、ご案内します。

表紙裏 伊根の舟屋

- 02 体験
- 04 伊根めぐり～モデルコース
- 06 伊根のイベント
- 07 伊根の祭
- 08 おいしいね Tasty INE
- 11 舟屋立ち寄り施設
- 12 伊根の逸品
- 13 ここちいいね Stay INE
- 20 伊根なび MAP



伊根町観光協会

〒626-0424
京都府与謝郡伊根町字亀島459
TEL.0772-32-0277 FAX.0772-32-0773
URL : <http://ine-kankou.jp>
E-mail : info@ine-kankou.jp